

学校教育目標

学校図書館は、教育課程の展開に寄与するとともに、児童の健全な教養を育成することを目的とする。

- 考える子(確かな学力)
- 思いやりのある子(豊かな心)
- 元気な子(健やかな体)

学校図書館では、読書週間、朝読書の取組や図書委員会による休み時間の貸出を行っている。また、図書ボランティアによる読み聞かせや図書整備等も行っている。電算化され、読書量も増加しているが、調べ学習等で図書館を利用する機会は少ない。

学校図書館の目標

学校図書館の活用を通して、自ら学ぶ意欲と態度を育て、生涯学習の基礎を培う。

ねらい

- ① すべての児童がより一層本に親しみ、豊かな心情と幅広い知識を身に付ける。
- ② 学び方の指導を充実し、図書館活用の望ましい態度や技術を高める。
- ③ 多様な資料から目的に応じた情報を選び、課題解決を図り、情報活用能力を育成する。

指導の重点

- ① 担任、学校司書、図書ボランティアが連携し、教育活動全体を通して、計画的な読書活動と学校図書館の活用を推進する。学校司書等に指導・助言していただき図書館環境を充実させる。
- ② 学校図書館を活用した教科等の学習を充実させる。問題解決学習の中で、情報活用能力の育成を図る。

各学年の重点目標

第一学年	・読み物を楽しんで読もうとする。 ・図書館に親しみを持ち、きまりを守って利用できる。	第二学年	・様々な種類の本を読もうとする。 ・進んで図書館を利用して調べようとする。	第五学年	・読書を通して知識を増やし、心情を豊かにする。 ・目的に応じて図書館を適切に利用する。
第二学年	・読み物を進んで読もうとする。 ・図書の扱い方や借り方など正しく利用できる。	第四学年	・図書の幅を広げ、進んで読み、読書量を増やす。 ・調べたいことを図書館で意欲的に調べる。	第六学年	・適切な本を選んで読む習慣を定着させる。 ・学び方を身に付け、課題解決能力を高める。

具体的な取組

【各教科】

- 図書館の司書等と連携し、課題解決学習、調べる学習、グループ学習の場とする。
- 情報の収集、処理等、情報活用能力を養う。

【総合的な学習の時間】

- 自ら課題を持ち、調べ考え、表現し交流し再考する活動を進める。探究的な学習を行う場として学校図書館を利用し図書を活用する。

【特別の教科 道徳】

- 図書資料を通して、様々な生き方や考え方に接し共感する中で、自己を見つめ、道徳的心情を育む。

【読書科】

- 「読み聞かせ」「おすすめの本」等で読書への意欲を高め、読書習慣や態度を養う。
- 図書館資料を活用した「調べる学習」を行い、整理・分析し、表現する力を養う。

【特別活動】

- 図書委員会を中心に、自発的・自治的に図書館を運営する。更に活用や工夫を考え、読書活動推進を行う。

【家庭・地域、区立図書館職員との連携】

- 月1回の図書ボランティアによる読み聞かせを行う。
- 学校司書と連携する。(蔵書整理、見学等)

朝読書・昼読書の推進

推進組織の検討・充実

図書館経営の評価

学校図書館環境の整備・充実